

# 練馬子ども議会報告書



令和元年度（2019年度）

練馬区



## ごあいさつ

練馬区教育長  
河 口 浩



練馬区では、中学生が区政や区議会、選挙の仕組みについての理解を深めることを目的に、「練馬子ども議会」を実施しています。

今年度は、子ども議員の皆さんから、「健康づくり」、「青少年の活動」、「省エネルギー対策」、「学校給食」について、区への政策提言を発表してもらいました。

この提言は、子ども議員の皆さんが約1か月にわたって地域調査を行い、グループ相互に意見交換を行ってまとめ上げた成果です。また、生涯学習センターでの政策提言発表においては、多くの傍聴者の前でスライドを用いた発表や、各グループ間での質疑応答を行うなど、貴重な体験をしていただけたものと思います。

子ども議員の皆さんには、この経験を生かし、普段から物事に問題意識を持ち、具体的に考える習慣を身に付け、自分達で解決策を見つける力を磨いてもらいたいと思います。これからの練馬区を未来ある皆さんたちと共に築いていくことを願うとともに、皆さんの更なる成長と今後の活躍を大いに期待しています。



## 目 次

➡ 令和元年度練馬子ども議会の開催について	2
➡ 令和元年度練馬子ども議会子ども議員名簿	4
➡ 練馬子ども議会が開催されるまで	5
➡ グループ紹介	
➡ You can try! アプリで目指す健康生活	12
➡ 令和のafter school 改革 ～広がれ アクティブな活動の輪～	14
➡ Let's エコライフ 未来への架け橋	16
➡ School lunch ～気持ちと共にいただきます～	18
➡ 練馬子ども議会開会宣言	21
➡ 意見交換会	25
➡ 政策提言発表	31
➡ 「健康アプリの利用を推進するための取組について」	33
You can try! アプリで目指す健康生活グループ	
➡ 「中高生の地域での活動の充実について」	38
令和のafter school 改革 ～広がれ アクティブな活動の輪～グループ	
➡ 「節電、省エネをもっと身近なものにするために」	42
Let's エコライフ 未来への架け橋グループ	
➡ 「残飯率を低くするために練馬区としてどうするべきか」	45
School lunch ～気持ちと共にいただきます～グループ	
➡ 会議録署名	53
➡ 資料	
➡ 令和元年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票	56
➡ 子ども議員へのアンケート集計結果	60
➡ 練馬子ども議会実行委員会プロジェクトチーム (PT)について	66

## 令和元年度練馬子ども議会の開催について

### 1 目的

#### (1) 区政に関する意見の聴取

子ども議員が日ごろ疑問に思っていること、希望や意見などを表明する場を提供するとともに、区政に反映させる機会とする。

#### (2) 区政や区議会、選挙の仕組みについての学習

子ども議会を経験することにより、区政や区議会の仕組みについて学習するとともに、選挙の仕組みについて理解を深め、区政についての関心を高める機会とする。

### 2 開催期間

(1) 学習会 令和元年7月6日(土)～令和元年7月31日(水)【全4回】

(2) 政策提言発表 令和元年8月6日(火)

### 3 開催場所

区役所会議室、議場、全員協議会室、生涯学習センターホールほか

### 4 子ども議員

区立中学校および国・都・私立中学校生徒 40名程度

### 5 実施内容

#### (1) 子ども議員の推薦

① 国・都・私・区立中学校に子ども議員の推薦を依頼する。

② 子ども議員に、2つの分野(教育・子ども分野、区政全般に関する分野)から希望する分野を選んでもらい、それをもとに4グループに分ける。

③ 所属するグループが決定した子ども議員は、テーマに関する事前学習を行う。

#### (2) 学習会

① 第1回学習会 7月6日(土) 13:00～18:00

[区役所会議室]

区政・区議会制度、選挙制度の学習、子ども議会概要説明、グループづくり、研究課題の設定

② 第2回学習会 7月23日(火) 9:00～16:00

[区役所会議室、地域調査場所]

地域調査、政策提言全容図の作成

- ③ 第3回学習会 7月24日(水) 13:00~18:00  
[区役所会議室]  
政策提言発表原稿の作成
- ④ 第4回学習会 7月31日(水) 9:00~17:00  
[議場、全員協議会室、区役所会議室]  
練馬子ども議会開会宣言、政策提言(案)発表、意見交換会、  
政策提言(案)の修正等
- (3) 政策提言発表 8月6日(火) 10:00~17:00  
[生涯学習センターホール]  
各グループの政策提言発表、地域調査報告、発表に対する他グループとの質疑応答
- ・リハーサル 10:00~12:00
  - ・政策提言発表等 13:30~15:30
  - ・ふりかえり・懇談会 15:30~16:30
- (4) 政策提言への取組調査  
政策提言の内容を各所管に示して取組状況の調査を行う。結果は練馬子ども議会報告書および区ホームページに掲載する。
- (5) 報告書  
練馬子ども議会報告書を作成し、区内各小中学校等に配付する。

## 6 練馬子ども議会の役割分担について

### (1) 練馬子ども議会実行委員会

練馬子ども議会の主要な事項について周知し、各所管課との連携を図るため、練馬子ども議会実行委員会を設置する。こども家庭部長を委員長、庶務担当課長会構成員をメンバーとする。

### (2) プロジェクトチーム

練馬子ども議会実行委員会の下部組織としてプロジェクトチーム(4名程度)を設置する。

教育・子ども分野から2名程度、区政全般に関する分野から2名程度(学習会の進行管理、助言、地域調査場所の選定および調査当日の随行等)

### (3) 事務局

教育委員会事務局こども家庭部青少年課に事務局を置く。

事務局は総合調整、実行委員会・PT説明会の進行管理、意見交換会・政策提言発表の運営、報告書作成・配付等を行う。

令和元年度 練馬子ども議会子ども議員名簿

グループ名	テーマ	氏名	ふりがな	性別	中学校名	学年
You can try! アプリで目指す健康生活	健康アプリの利用を 推進するための 取組について	安西 玲那	あんざい れな	女	石神井西中学校	2
		飯田 航輝	いいだ こうき	男	開進第一中学校	2
		石川 那奈	いしかわ なな	女	小中一貫教育校大泉桜学園	8
		稲垣 享成	いながき こうせい	男	大泉西中学校	2
		大澤 舞桜	おおさわ まお	女	中村中学校	2
		草間 勇輝	くさま ゆうき	男	石神井南中学校	2
		杉山 果音	すぎやま かのん	女	上石神井中学校	2
		田村 葵	たむら あおい	女	関中学校	2
		山崎 大幹	やまざき たいき	男	開進第四中学校	2
令和のafter school 改革 ～広がれ アクティブな活動の輪～	中高生の地域での 活動の充実について	出淵 武丸	いずぶち たけまる	男	光が丘第二中学校	2
		大関 琥太郎	おおぜき こたろう	男	光が丘第三中学校	2
		岡部 茉奈	おかべ まな	女	貫井中学校	2
		小林 篤生	こばやし あつき	男	南が丘中学校	3
		五月女 大志	さおとめ だいし	男	三原台中学校	2
		垂 七楓	たれ ななか	女	大泉第二中学校	2
		中村 はる緒	なかむら はるお	女	開進第三中学校	2
		山岸 清乃	やまぎし さやの	女	旭丘中学校	2
		渡邊 あゆみ	わたなべ あゆみ	女	東京女子学院中学校	3
Let's エコライフ 未来への架け橋	節電、省エネを もっと身近なものに するために	久保田 珀	くぼた はく	男	大泉北中学校	2
		黒川 綾斗	くろかわ あやと	男	練馬東中学校	2
		田村 活貴	たむら かつき	男	練馬中学校	2
		長澤 樹里	ながさわ じゅり	女	豊玉中学校	3
		長竹 琢朗	ながたけ たくろう	男	石神井南中学校	2
		長束 舞	ながつか まい	女	八坂中学校	2
		山田 優奈	やまだ ゆうな	女	光が丘第一中学校	2
		山本 光翼	やまもと こうすけ	男	石神井東中学校	2
		吉田 彩希子	よしだ さきこ	女	開進第二中学校	2
School lunch ～気持ちと共にいただきます～	残飯率を低くするために 練馬区としてどうするべきか	阿部 乃々栞	あべ ののか	女	大泉中学校	2
		石井 正太郎	いしい しょうたろう	男	豊溪中学校	2
		佐藤 雄大	さとう ゆうだい	男	北町中学校	2
		島田 晃大	しまだ こうだい	男	田柄中学校	3
		田中 楽乃	たなか らんの	女	谷原中学校	2
		土田 里咲	つちだ りさ	女	石神井中学校	2
		中野 亮正	なかの りょうせい	男	大泉学園中学校	2
		南出 佑大	みなみで ゆうた	男	豊玉第二中学校	2

# 練馬子ども議会が開催されるまで

## 子ども議員の募集

- ◇ 区立中学校（全 33 校）、区内の国・都・私立中学校（6 校）に子ども議員の推薦を依頼しました。

## 子ども議員の決定

- ◇ 区立中学校から 34 名、私立中学校から 1 名の推薦があり、合計 35 名の子ども議員が決定しました。
- ◇ 子ども議員は、調査、提案したいテーマごとに、1 グループ 8～9 名で構成する 4 つのグループに分かれました。
- ◇ 所属するグループの決まった子ども議員は、調査、提案したい内容について事前学習を行い、学習シートを提出しました。



## 第1回学習会

7月6日（土）

13:00～18:00＜区役所会議室＞

35 名の子ども議員が出席しました。

（主な実施内容）

### 【全体会】

#### 区政・区議会制度について

練馬区の特徴、区政運営、今後の方向性、そして練馬区の組織や区議会の仕組みについて学習しました。

#### 選挙制度について

選挙権や選挙の種類、若年層の投票率などを学習し、模擬投票を体験しました。

#### 練馬子ども議会について

練馬子ども議会のあらましについて説明を受けました。

#### 政策提言について

政策形成の方法、提言書の作成について説明を受けました。

#### 地域調査について

地域調査のための調査場所、対象など、具体的な方法について説明を受けました。





### 【グループ別学習会】

- ① 自己紹介を行いました。
- ② グループ長と書記を決めました。
- ③ 事前学習シートを参考に話し合い、政策提言発表のテーマを決めました。
- ④ 第2回学習会で行う地域調査の調査場所および調査内容を決めました。

## 第2回学習会

7月23日(火)

9:00～16:00

35名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

### 【地域調査】

地域の人たちの話を聴くなど、地域の事象を実際に目で見て課題を捉える。

#### ① You can try! アプリで目指す健康生活グループ

健康アプリの利用を推進するための取組について学習するため、健康推進課職員から取組状況等を聞きました。

また、中村南スポーツセンターに行き、職員へインタビュー等をしてきました。



#### ② 令和のafter school 改革 ～広がれ アクティブな活動の輪～グループ



中高生の地域での活動の充実について学習するため、春日町青少年館と光が丘なかよし児童館に行き、職員から取組状況等を聞き、インタビューしてきました。

### ③ Let's エコライフ 未来への架け橋グループ

節電・省エネへの取組について学習するため、春日町リサイクルセンターや区役所環境課に行き、職員から取組状況等を聞き、インタビューしてきました。



### ④ School lunch～気持ちと共にいただきます～グループ



残飯率を低くするための取組について学習するため、中学校の栄養教諭にインタビューしてきました。

#### 【グループ別学習会】

##### 地域調査のまとめ

地域調査で、実際に見て、聞いて、感じたこと、わかったことをみんなで話し合い、確認しました。



## 第3回学習会

7月24日(水)

13:00～18:00<区役所会議室>

33名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

#### 【全体会】

##### 議長・会議録署名議員の選出

立候補者を募り、議長・会議録署名議員を決めました。

## 【グループ別学習会】



第2回学習会で話し合った内容をまとめ、政策提言発表で提案する原稿を作成しました。また、練馬子ども議会開会宣言・意見交換会のリハーサルを行いました。

## 第4回学習会

7月31日(水)

9:00～17:00<本会議場・全員協議会室・区役所会議室ほか>

35名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】9:00～10:00

練馬子ども議会開会宣言・意見交換会の流れを確認しました。

【練馬子ども議会開会】10:00～10:05



議場で開会宣言し、会議録署名議員の指名、会期・議題を決定しました。

【意見交換会】10:15～12:00

各グループが政策提言(案)を発表し、意見を交換しました。

※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など25名の方が傍聴されました。



## 【グループ別学習会】 13:00～17:00



意見交換会後に、質疑応答のまとめや、改めて考えたことなどをグループ内で話し合いました。

## 政策提言発表

**8月6日(火)** 13:30～15:30<生涯学習センター>  
35名の子ども議員が出席しました。

生涯学習センターにおいて、区に対してグループで政策提言発表等を行いました。各グループの発表について教育長から講評を受けました。



### ※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など59名の方が傍聴されました。

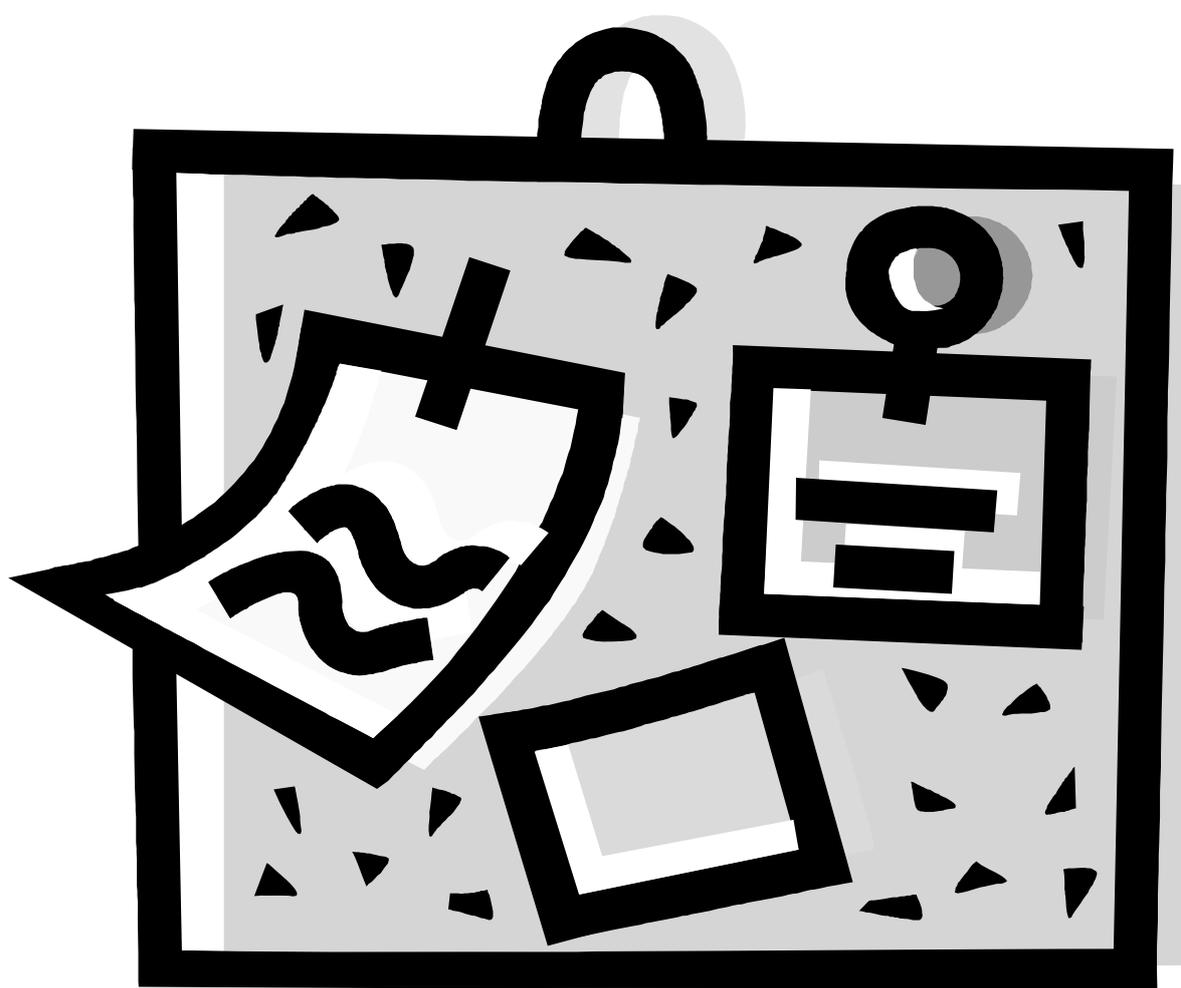
### 【懇談会】



練馬子ども議会閉会後は懇談会を行い、活動を通じて仲良くなった友達と、これまでを振り返り親睦を深めました。また、記念品の贈呈を行いました。



# グループ紹介



Y o u c a n t r y !

## アプリで目指す健康生活グループ

「健康アプリの利用を推進するための取組について」



安西 玲那（石神井西中学校） 飯田 航輝（開進第一中学校）  
石川 那奈（小中一貫教育校大泉桜学園） 稲垣 享成（大泉西中学校）  
大澤 舞桜（中村中学校） 草間 勇輝（石神井南中学校） 杉山 果音（上石神井中学校）  
田村 葵（関中学校） 山崎 大幹（開進第四中学校）

P T 渡邊 奈美（光が丘保健相談所）

P T 金 由希子（石神井保健相談所）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：健康アプリの利用を推進するための取組について

調査目的

健康アプリの利用実態を調べるため。

調査場所

中村南スポーツ交流センター・区役所

調査内容・方法

区役所の職員の方と利用者へインタビューをして、利用実態を調べる。

区の現状（すでに実施しているか）

- ① 健康アプリの広報は様々な方法で行われている。
- ② 健康アプリの知名度は低い。
- ③ 健康アプリにはたくさんの機能がある。
- ④ 自分たちの身近な人にはあまり使われていない。
- ⑤ 若い世代（20～50代あたり）をターゲットにしており、50代の利用率が一番多い。

課題・問題点

- ① アプリの広報の仕方。アプリの知名度が低い。
- ② アプリが本来ターゲットにしていた若い世代にはあまり利用されていない。
- ③ 若い世代は仕事や子育て等が忙しく、健康が後回しになりがちである（アプリの利用率が低い）。

解決策の検討項目

- ① PRの場所、回数を増やす。
  - ② 若い世代向けの項目を増やす。
  - ③ 忙しい人向けの項目を増やす
- ①～③の実施することでアプリの興味をひくような工夫をする。

解決するための方法・手段

- ① PRの方法として新聞や区ホームページを利用する。また学校等で講習を開く。
- ② 若い世代に周知させるため、キャンペーンを企画する。
- ③ 新しい機能をつけ、利用しやすくする。

自分たちができること

まずは自分たちがアプリを使用し、身の周りの人にPRする。  
 学校でポスターを作成する。  
 アプリのアンケート等に答え、提案や改善等の意見を伝える。  
 健康アプリを使用することを自身の健康づくりへとつなげる。

# 令和の a f t e r s c h o o l 改革 ～広がれ アクティブな活動の輪～ グループ

「中高生の地域での活動の充実について」



出渕 武丸（光が丘第二中学校）大関 琥太郎（光が丘第三中学校）  
岡部 茉奈（貫井中学校）小林 篤生（南が丘中学校）五月女 大志（三原台中学校）  
垂 七楓（大泉第二中学校）中村 はる緒（開進第三中学校）山岸 清乃（旭丘中学校）  
渡邊 あゆみ（東京女子学院中学校）

P T 佐藤 裕之（春日町青少年館）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：中高生の地域での活動の充実について

調査目的

中高生の児童館・青少年館の利用率を上げる。

調査場所

春日町青少年館・なかよし児童館・学校

調査内容・方法

利用者数と取り組みについて職員の方にインタビュー。放課後などの過ごし方について子ども議員の学校でアンケートを行う。

区の現状（すでに実施しているか）

- ・青少年館の認知度が低い。児童館は、小学生が行くところという考えの人が多く。
- ・区報や区のホームページでPRしている。中学生の利用率が低い。
- ・幼児との交流がない。
- ・放課後は、一人や家族で過ごす人が多い。
- ・誰でも使えるように取り組んでいる。

課題・問題点

部活などが忙しく、参加したくてもできない。知名度が低く、PRが少ない。  
 青少年館が2つしかない。中高生のニーズが分からない。外出せず、家で過ごすひとが多い。  
 中高生向けのイベントが少ない。参加するメリットがない。  
 参加する意欲がない。

解決策の検討項目

- ① PRは、SNSを利用する。
- ② 中高生向けのイベントを増やす。
- ③ 「また、来たい」と思えるような活動を企画する。
- ④ 練馬ならではの独自の活動として、アニメイベントやウォークラリーを行う。
- ⑤ ポイント制にするなどメリットを企画する。

解決するための方法・手段

- ① 児童館や青少年館のホームページを見やすくする。
- ②③ 中高生のニーズを知るため、アンケートなどを積極的に行い、その結果を反映させていくようにする。
- ④ 青少年館と児童館が連携したイベントを企画する。例えば、ウォークラリーなどを開催する。
- ⑤ ポイントカードやアプリの作成、スマホは使用できる場所を確保するなどメリットを工夫する。

自分たちができること

イベントに参加する。自分が実際に行ってみて、児童館などの良さを発信する。  
 自分自身も新聞やポスターを作成するとともに、児童館等のホームページの作成にも直接的・間接的に携わるなどPRを行う。  
 運営側にも参加させてもらうなどサポーターとして参加する。  
 職員の方に自分の考え、意見を伝えてみる。

# Let's エコライフ 未来への架け橋グループ

「節電、省エネをもっと身近なものにするために」



久保田 珀（大泉北中学校）黒川 綾斗（練馬東中学校）田村 活貴（練馬中学校）  
長澤 樹里（豊玉中学校）長竹 琢朗（石神井南中学校）長束 舞（八坂中学校）  
山田 優奈（光が丘第一中学校）山本 光翼（石神井東中学校）  
吉田 彩希子（開進第二中学校）

P.T 佐藤 典男（環境課）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：節電、省エネをもっと身近なものにするために

### 調査目的

節電、省エネをもっと身近なものに

### 調査場所

春日町リサイクルセンター、区役所環境課

### 調査内容・方法

担当職員の方にインタビューして、節電、省エネについて調査する。

### 区の現状（すでに実施しているか）

- ・節電、省エネに関わるイベントや後援会をしている。
- ・エコライフチェックを行いCO<sub>2</sub>削減に努めている
- ・練馬区の施設等に節電ポスターを掲示している。
- ・家庭のエネルギー消費量が多い。

### 課題・問題点

- ① エコライフチェックを毎年実施しているが、省エネに関する行動が定着しない。
- ② 区民の節電・省エネに対する関心が無い。

### 解決策の検討項目

関心を持ってもらうためには、知ってもらうためには、

- ① 取組を身近なものにする。
- ② 周知方法を工夫する。

### 解決するための方法・手段

- ① 学校内で資源回収を行う。
- ① 節電・節水シールを貼る。
- ② 手書きのポスターを作る。
- ② 地球温暖化対策の重大さを有名人が紹介する。
- ② 節電、省エネをすることのメリットや排出されるCO<sub>2</sub>の量などを学校から伝えてもらう。
- ② SNSで動画をあげて周知する。
- ② 防災無線で省エネについて流してもらう。

### 自分たちができること

- ・手書きのポスターを作る。
- ・学校などで資源回収を行う。
- ・イベントに友人を連れて行く。
- ・自分で節電を心掛ける。
- ・家族と仲良く一緒に行動する。

# S c h o o l   l u n c h

～気持ちと共にいただきます～グループ

「残飯率を低くするために練馬区としてどうすべきか」



阿部 乃々栞（大泉中学校）石井 正太朗（豊溪中学校）佐藤 雄大（北町中学校）  
島田 晃大（田柄中学校）田中 楽乃（谷原中学校）中野 亮正（大泉学園中学校）  
南出 佑大（豊玉第二中学校）

P T 原田 真理（保健給食課）



地域調査の様子



意見のまとめの様子

※名前はいいうえお順・敬称略で掲載しています。

テーマ：残飯率を低くするために練馬区としてどうするべきか

### 調査目的

練馬区の学校給食の実状を調べる。

### 調査場所

区役所 20 階交流会場、1 階アトリウム

### 調査内容・方法

栄養教諭へインタビュー

ブルーベリーマーケット見学し、農家のかた、JA  
あおばの方へインタビュー。実状を調査する。

### 区の現状（すでに実施しているか）

- ① 全ての学校に給食のサンプルが置かれていない。
  - ② 食育に触れる機会が少ない。
  - ③ 給食を食べる時間が短い。
    - ・残飯率が小学生に比べ中学生のほうが多い。
    - ・洋食を好み、和食を食べたがらない。
    - ・食わず嫌いする人が多い。
- （手作り重視、地産地消、食材を 3 回以上洗浄等）

### 課題・問題点

- ① 全ての学校に給食サンプルが置かれず、サンプルを置いてもその意味を知らない。
- ② 家庭科や保健の授業を通し食育に触れているが、「食育」という授業がない。
- ③ 給食を準備する時間が多くかかってしまい、食べる時間が短くなっている。

### 解決策の検討項目

- ① サンプル設置の検討をする。
- ② 食育の授業の検討をする。
- ③ 給食を食べる時間の確保の工夫する。

### 解決するための方法・手段

- ① 出来上がった給食の写真を撮影し、配膳ワゴンに載せる。（検食の分を撮影する。）  
献立の内容を詳しく書く。配分量を言葉で表す。
- ② 学校の授業内で取り扱う。給食メニューを考え、リクエストする。
- ③ 給食委員と協力して、準備にかかった時間を計り、良かったクラスを表彰する。担任、副担任の先生に協力してもらう。

### 自分たちができること

- ① サンプルを見てもらうよう呼びかける。クラス内でその日の給食の説明をする。
- ② 給食委員会で「給食クイズ」を実施する。給食に対する疑問や改善点、自分が出題したいクイズなど書いて入れる Box を設置し、栄養士の方などに回答してもらう。
- ③ 給食の準備が進むよう呼びかける。その他として残さず食べるよう実践する。食レポをして知らせる。



# 練馬子ども議会

## 開会宣言



# 令和元年度 練馬子ども議会開会宣言座席表 (議場)

青少年課長	議長 (南出)
-------	---------

演壇
----

School lunch  
～気持ちと共にいたいただきます～  
グループ

田中	石井	山本
土田	佐藤	吉田
中野	島田	阿部

Let'sエコライフ  
未来への架け橋  
グループ

長澤	渡邊	五月女	出淵
長竹	久保田	垂	大関
長東	黒川	中村	岡部
山田	田村 (活)	山岸	小林

令和のAfter school 改革  
～広がれ アグティブな活動の輪～  
グループ

杉山	稲垣	安西
田村 (葵)	大澤	飯田
山崎	草間	石川

You can try!  
アプリで目指す健康生活  
グループ

# 練馬子ども議会・開会宣言

令和元年7月31日（水） 10:00～10:05

## 青少年課長

ただいまの出席議員は、35名でございます。

## 議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、豊玉第二中学校2年、南出佑大です。よろしくお願いいたします。

ただいまから、練馬子ども議会を開会します。直ちに、本日の会議を開きます。



南出 佑大 議長

## 会議録署名議員の指名

## 議長

まず、会議録署名議員を議長より指名します。

飯田航輝議員、五月女大志議員、吉田彩希子議員、石井正太郎議員、以上4名の議員にお願いします。

次に、練馬子ども議会の会期についてを議題とします。

子ども議会の会期は、本日および8月6日の2日間としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

## 子ども議員

(異議なし)

## 議長

ご異議なしと認めます。よって、子ども議会の会期は、本日および8月6日の2日間とすることに決定しました。

次に、政策提言について、第1提案「健康アプリの利用を推進するための取組について」、第2提案「中高生の地域での活動の充実について」、第3提案「節電、省エネをもっと身近なものにするために」、第4提案「残飯率を低くするために練馬区としてどうするべきか」が提出されています。

政策提言につきましては、この際、直ちに意見交換会を開催し付託したいと思いますが、これにご異議はありませんか。

## 子ども議員

(異議なし)

## 議長

ご異議なしと認めます。よって、政策提言につきましては、これから全員協議会室で開催する意見交換会に付託することを決定しました。

以上で、本日の日程は終了しました。

これをもって、散会します。

# 意見交換会



## 練馬子ども議会・意見交換会

令和元年7月31日（水） 10：15～12：00

「健康アプリの利用を推進するための取組について」

You can try! アプリで目指す健康生活グループ

**質問：**学校等で講習会を開くとありましたが、どのような内容の講習会ですか。

**回答：**例えば、アプリの使用方法やアプリの機能などについて詳しく話すという内容で講習会を開くことを考えています。

**質問：**PRの回数を増やすとのことですが、どれぐらいの回数を考えていますか。

**回答：**PRは主に練馬区報に掲載することを考えています。現在は1年に1回となっていますが、それを半年に1回など、より定期的に区報に掲載するという取組が解決に至るのではないかと考えています。

**質問：**健康アプリについては、三日坊主の方等、継続するのが難しいと考える方がとても多いと思うのですが、その点について、対策などは具体的にあるのでしょうか。

**回答：**継続できるようにするためには、キャンペーンの回数を増やしたり、新しい機能をつけることなどが考えられます。



「中高生の地域での活動の充実について」

令和の after school 改革～広げられ アクティブな活動の輪～グループ

**質問：**青少年館と児童館の違いは何ですか。

**回答：**青少年館は主に小学生から30歳までの方々が利用することができる施設で、児童館は0歳から18歳まで利用することができる施設です。

**質問：**児童館は小学生が行くところと考えている人が多いとありますが、この考えはどこで調べたのですか。

**回答：**児童館でのインタビューで職員の方から、児童館は小学生の利用率が多くて、小学生が行くイメージが多いという意見がありました。

**質問：**中学生の児童館の利用率は低いとありましたが、中学生は部活があつて忙しいということがあると思います。部活で忙しい中学生でも、児童館に行けるようになる具体的な対策はありますか。

**回答：**少し遅い時間帯でも利用できるようにして、部活の後でも行ける対策をとっています。

質問：ホームページに載せて知名度を上げるとありましたが、ホームページに載っているということの中高生の人にどのようにしてPRするのか教えてください。

回答：ポスターでホームページについてPRします。そのポスターを自分達で手づくりすれば、見てくれる人が増えると思います。

質問：そのポスターはどこに張るのか、教えてください。

回答：主に学校の廊下などを考えています。

質問：自分たちができることとして新聞やポスターを作成するとともに、児童館のホームページの作成にも携わるとありましたが。ポスターや新聞の作成は自分たちでできると思いますが、ホームページの作成に携わるのは無理があるのではないのでしょうか。



回答：直接的に携わることができなくても、意見などを出したりして携わっていただきたいと思います。

質問：家族で参加できるイベントについて、どのようなイベントを考えていますか。

回答：ウォークラリーなどを考えています。

質問：PRはSNSを利用するとありましたが、学校等で手紙などを配ることも良いのではないのでしょうか。

回答：手紙を配布しても目を通してもらえないという現実があるので、より目を通してもらいやすいようにSNSを活用したいと考えています。

質問：練馬ならではの独自の活動を行うとありましたが、どのような活動ですか。

回答：練馬の各所を見て回ることです。

「節電、省エネをもっと身近なものにするために」  
Let's エコライフ 未来への架け橋グループ

質問：資源回収を競争して行うとありましたが、競争のために資源を使用すると、使わなくて良い資源まで使ってしまうことも考えられます。その点についてどのように考えていますか。

回答：あくまでも身近な動機づけと考えているので、そこまで大きく考えなくてもいいのではないかと考えます。

質問：省エネとは何ですか。

回答：無駄なエネルギーをなるべく削減して地球温暖化を抑制するための取組として、省エネという言葉を使っています。

具体的な事例としては、トイレの蓋を閉めるなど、二酸化炭素の排出量を抑えるとか、そういうことを省エネという言葉で総称しています。

質問：地球温暖化対策の重大さを有名人が紹介するとありましたが、具体的にどのような

人を考えていますか。

回答：例えば、警視庁のオレオレ詐欺などの防犯の周知で出ている芸能人や、練馬区出身の芸能人など、あとは若者に人気のY o u T u b e rを考えています。

質問：節電・省エネに関わるイベントや講座をしているとありましたが、PRはどうしていますか。

回答：練馬区のホームページで周知をしています。

質問：友人をイベントに連れて行くとありましたが、イベントとは具体的にどのような内容でしょうか。

回答：ねりまエコスタイルフェアという節電・省エネにかかわるイベントがあるので、そのようなイベントに友人を誘って行くことで、さらに多くの人々が節電・省エネについて知ることができると考えています。

質問：地球温暖化対策の重大さを有名人が周知するとありますが、効果はあるのでしょうか。

回答：有名人やY o u T u b e rが周知することで、マスコミが取り上げてくれるようになり、ニュースで流れれば、必然的に区民が耳にするような形になり、効果があると考えています。

質問：手書きのポスターとは、どのような内容ですか。

回答：省エネ・節電に関する内容を小中学生に考えて描いてもらいます。

質問：学校内で資源回収を行うとありますが、何の資源ですか。

回答：ペットボトルのキャップや古紙です。

質問：防災無線を周知に利用することは、

防災無線本来の役割が果たせなくなったり、場合によっては迷惑になってしまう可能性もあると思います。その点について対策はありますか。

回答：防災無線は5時半または4時半のチャイムで利用されているので、それと一緒に流せば良いと考えます。

質問：春日町リサイクルセンターはどのような施設なのか、教えてください。

回答：キャップやインクカートリッジなどの資源回収や、リサイクルに関する講座の実施、再利用可能な家具の展示・販売などを行っています。このように、区民にリサイクルの大切さを伝えることを目的に設置された施設と聞いています。

質問：有名人にPRしてもらおうとありますが、具体的な方法を教えてください。

回答：ニュースの中で取り上げてもらったり、Y o u T u b e rに協力してもらって動画を流すことなどを考えています。

質問：学校内で資源回収とは、具体的にどのように回収していますか。

回答：自分の学校では、エコキャップウィークがあり、エコキャップを集めているのですが、そのときは業者に頼んで回収してもらっています。



「残飯率を低くするために練馬区としてどうするべきか」  
School lunch～気持ちと共にいただきます～グループ

**質問：**洋食を好み、和食を食べたがらないとありましたが、どのようなことからわかったことなのでしょう。

**回答：**地域調査にて栄養教諭の先生にインタビューした時に教えていただきました。

**質問：**食育の授業とは、具体的にどのようなことを学ぶのですか。

**回答：**家庭科の調理実習では、食べ物に関する知識や調理の技術が身につけられます。また、保健などでは食べるということについても学んでいます。食育の授業があれば、食事のマナーや、食べることで身体がどのようにして成長していくのか、そういうことも学べるのではないかと思います。

**質問：**中学生は小学生より残飯が多いとありましたが、それはなぜですか。

**回答：**中学生は、ダイエットなど体型を気にして食べないという原因があると思います。

**質問：**食レポは残飯率を減らすことにつながるのでしょうか。人によって味覚が違うと思います。また、食レポを実際にやってみてくれませんか。

**回答：**人によって味覚の違いはあると思いますが、食レポをすることで給食への興味はわくと思います。そうすることで残飯率を減らすことにつながると思います。

**回答：**ご質問いただきました、食レポの実例を今から行いたいと思います。

例えば、これがクリームシチューだとお考えください「ああ、今日の給食はクリームシチューか。おいしそうだな。いいにおいがするな。ジャガイモがとろり



としていておいしいな。これはみんなもおいしいと思うだろうな。」という感じです。

**質問：**食育の授業に関してなのですが、学習指導要領で決まりがあるので、授業という形にしづらいと思います。どのようにお考えですか。

**回答：**皆さんの学校で朝礼や集会が行われるときに、栄養士さんから食育に関わるお話をしてもらおうなど考えています。

**質問：**サンプルを置く意味は何ですか。

**回答：**給食当番が1回に盛りつける目安をわかりやすくするためです。

そうすることによって、配膳時間も短くなり、食事時間も十分とることができ、結果的に残飯率も減っていくと思います。

**質問：**J A東京あおぼとは何ですか。

**回答：**農家さんと買う側の人たちの間をつなぎ、速やかに生産者が販売できるようにした

り、農業をする人のお手伝いをする方々のことです。

**質問：**サンプルについては、「でき上がった給食の写真を撮影し」とあるのですが、写真だと立体的に見えないので量などがわかりにくいと思います。いかがですか。

**回答：**例えば、写真ではなく給食そのものを置くとなると、衛生面とその給食代を誰が払うのかという問題があります。さらに、そのまま捨ててしまうと残飯率を減らすことにつながりません。以上から、校長先生の検食分の写真を利用する方法が良いと考えました。

**質問：**準備にかかった時間を計り、早いクラスを表彰するとあったのですが、給食前の授業が体育だったりすると、着替えなどで時間がかかり不平等になると思います。また、早く準備を終わらせて表彰されたいがために廊下を走るなどのルール違反をする人が出てくるかもしれません。それについての対策は何かありますか。

**回答：**不平等にならないよう、例えば、月曜日から金曜日の1週間の中で1番早かったタイムで競う形が解決策として考えられます。また、担任や副担任を含めた大人の人にできる限り協力してもらいながら、ルール違反が無いよう、効率よく給食の準備を進めていく必要もあると考えます。

**質問：**サンプルを置くことでは、食への関心はそれほど変わらないと思うのですが、いかがですか。

**回答：**写真の横に、今日の献立の豆知識のような一言メモなどを置いたら、食への関心も生まれると思われれます。

**質問：**給食クイズはどのような内容ですか。

また、残飯の量を減らすことにつながるのでしょうか。

**回答：**例として、きなこ揚げパンがあるとします。きな粉は何からできているかなど、そういったクイズを出すことで給食に興味を持ってもらえば、残飯の量を減らすことにつながると思われれます。

# 政策提言発表



令和元年度練馬子ども議会 政策提言発表 次第

令和元年8月6日 13:30～

練馬区立生涯学習センターホール

1 挨拶

2 政策提言発表

(1) 開会

(2) 政策提言発表

提言1 テーマ 健康アプリの利用を推進するための取組について  
グループ名 You can try! アプリで目指す健康生活

提言2 テーマ 中高生の地域での活動の充実について  
グループ名 令和の after school 改革～広がり アクティブな活動の輪～

提言3 テーマ 節電、省エネをもっと身近なものにするために  
グループ名 Let's エコライフ 未来への架け橋

提言4 テーマ 残飯率を低くするために練馬区としてどうするべきか  
グループ名 School lunch～気持ちと共にいただきます～

※グループごとに、政策提言発表、質疑応答を行います。

(3) 講評

(4) 閉会

# 練馬子ども議会・政策提言発表

令和元年8月6日(火) 13:30~15:30

## 青少年課長

ただいまの出席議員は、35名でございます。

## 議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、豊玉第二中学校2年、南出佑大です。よろしくお願ひします。

ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、令和元年度、練馬子ども議会政策提言発表を議題とします。

意見交換会での審査の結果、今年度の政策提言は、「健康アプリの利用を推進するための取組について」、「中高生の地域での活動の充実について」、「節電、省エネをもっと身近なものにするために」、「残飯率を低くするために練馬区としてどうすべきか」の四つとなりましたので、報告を求めます。

順次、発言を許可します。

「You can try! アプリで目指す健康生活グループ」、お願ひします。



## 「健康アプリの利用を推進するための取組について」

### You can try! アプリで目指す健康生活グループ



私たち「You can try! アプリで目指す健康生活グループ」は、「健康アプリの利用を推進するための取組について」というテーマに基づいて発言します。

私たちの住んでいる練馬区は、健康づくりを推進するために「ねりまちてくてくサブリ」という健康アプリを配信しています。

このアプリは、20代から50代の方に健康について意識してもらいたいという思いを込めて、平成29年11月に配信を開始しました。7月現在のアプリ登録件数は約1万800件で、皆さんの身の周りでもまだまだアプリを利用している人は少ないと思います。

区では、知名度を上げるために練馬区報に情報を掲載したり、チラシを区内の施設などに配布しています。

最もアプリを利用している世代は50代で、次に40代、60代です。利用している約7～8割はターゲットにしている20代から50代が占めていますが、まだ多くの方に使っていない現状があります。

また、アプリには健康に関する16の機能がありますが、活用されていないように感じました。

これらの現状を踏まえ、私たちは地域調査を行いました。

では、地域調査報告に移ります。

今回、私たちは健康アプリの利用を推進するための取組について調べるために、「ねりまちてくてくサプリ」を作られた練馬区役所の健康づくり係の職員の方と中村南スポーツ交流センターの方にインタビューをしました。

区役所では、アプリの普及を図るため、年に一度、区報にアプリについての記事を書いたり、仕事で忙しく実際のコースを歩くことが難しい方のために「バーチャルてくてくコース」を作り、空いた時間を楽しめるような工夫をしていくことが分かりました。

スポーツセンターには、アプリの名刺サイズの広報が置いてありました。名刺サイズ理由は、大き過ぎると区の施設や民間のお店では置きにくい可能性もあるので、名刺サイズのものを作ったそうです。



また、以前は健康づくりを広げるために日々の健康状態を記入する健康手帳というものがありましたが、若い世代にはあまり利用されていませんでした。そこで、スマートフォンの普及率の増加に目を付け、アプリで健康についての情報発信をすれば健康づくりに関心を持つ人が増えるのでは、ということでこのアプリが誕生しました。

登録者はひと月で200～300人程度増加するそうです。そして、スポーツセンターを多く利用する年代は50代であり、アプリを主に使用する年代と一致しています。

以上から、アプリの利用者は73万人の区民の中ではまだまだ少なく、アプリの良さが伝わっていないということが分かります。

私たちもアプリを操作してから担当職員の方に話を聞きましたが、知らない機能も多く、使っている人にもアプリの使い方が伝わっていないのではないかと考えました。

そこから、次に述べる三つの問題点を見つけました。

一つ目は、アプリの知名度が低いということです。

二つ目は、より多くの方にアプリを利用してもらうためにはさらなる工夫が必要だということです。アプリの対象である20～50代の若い世代は仕事等が忙しく、健康のことが後回しになり、日々の健康づくりや定期的な健康診査を意識してもらえないということが問題になっています。

三つ目は、アプリのたくさんある機能がうまく活用されていないことです。

以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

まず、一つ目のアプリの知名度が低いことについては、PRの場所、回数を増やすことです。

具体的な方法として、次の六つがあります。

- 1、新聞で宣伝する。
- 2、区のホームページで今よりももっと興味を引くように紹介する。
- 3、学校で講習会などを行う。
- 4、ポスターコンクールなどを行う。
- 5、保護者や教員の手にも渡るようにチラシを学校で配ったり、掲示板に貼ったりする。
- 6、ネットの口コミなどで周りの人に広める。



ということです。これらを実践してみてもう一度はどうでしょうか。

二つ目の多くの方々に使ってもらえていないという課題については、興味を引けるような工夫が必要になってくると考えます。

最近では、1日の歩数が7,000歩以上を5回クリアするとブルーベリー1パックプレゼントというキャンペーンを行っていました。

このようなアプリと連携したキャンペーンを宣伝、実施するということが今後も定期的に必要だと考えます。

例えば、若い人の多くが利用しているラインスタンプがもらえるキャンペーンはどうでしょうか。キャンペーンを行っていくことのメリットは、忙しい年代の方々に楽しくお徳感のあるキャンペーンという方法でPRすることで、アプリに対する興味を引くことができるという点です。

三つ目の機能が活用されていないことについては、二つ解決法が考えられます。

アプリ内には、自分の身長、体重を入れて記録をつける機能があります。

また、健康診査の結果も記入でき、生活改善に向けての簡単なアドバイスが出るようになっていきます。しかし、知られていなければ活用ができないので、僕たちが考えたことの一つは、健康診査の結果票にアプリのご案内を入れ、読み取り機能などでアプリに簡単に結果入力をできるようにすること。

もう一つは、結果を聞きに行った際に、直接、病院からアプリの活用を勧めってもらうことです。

また、アプリ関連ではないですが、健康診査に多く行ってもらう方法として様々な時間帯から受診時間を選択できるようにすることが挙げられます。

働く世代は、日中は仕事をしているのでなかなか受診することができません。なので、早朝や夜間に受診できるようにすればよいと思います。

そして、その実現のために、例えば、わずか30分程度の健康診査を受診できるような仕組み、「クイック健診 in 練馬」という制度を作ることなども挙げられます。それが実現できれば、忙しい働く世代でも隙間の時間を利用して受診できるようになります。

これらが実現できれば、病気の早期発見なども今までよりも多くできるようになると思います。

これらを実現してみたいはかがでしょうか。

最後に私たちができることは三つあります。

一つ目は、自分たちでアプリを使用してみることです。使用した上で、改善点や良かったところを若い世代の意見として区に伝えれば、より若い人が親しみやすくなるアプリにすることができます。

二つ目は、身近な人にPRするということです。身近な人に伝われば、その人からまた次の人にどんどんつながっていくので、アプリが広がりやすくなり、利用率が上がると思います。

三つ目は、学校でアプリについてのポスターを掲示するということです。学校はたくさんの人があるので、全員が通る場所に掲示をすれば、アプリについてより周知されると思います。

このような方法でPRしていくことで、生徒たちだけではなく、保護者や教員など別の世代の人にも伝わるので効率の良いPR方法といえると思います。

これらの三つをすることで、アプリで目指す健康生活につなげることができると思います。

また、アプリ以外にも私たち中学生が健康のためにできることが多くあると思います。早寝早起き、朝ごはんをしっかりと食べるなども心掛けていきたいです。

以上で、「You can try! アプリで目指す健康生活グループ」の発言を終わります。

## 議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について質問があればお願いします。

質問：忙しい人向けの項目はないのですか。

回答：忙しい人向けの項目は、「バーチャルてくてくコース」というものがあります。

具体的にどういう機能かと言うと、歩数を距離に置きかえるので、実際のコースを歩かなくても踏破できる機能です。



質問：ターゲットは20代～50代とありましたが、学校でPRをしても効果はあるのでしょうか。

回答：学校でポスターを掲示するとしたら、教員の年齢は23歳から59歳の間の人であり、ターゲットと一致していると思います。

また、チラシを学校で配布すると保護者にも伝わるため、より幅広い世代に伝わると思います。

質問：健康アプリを若い世代に利用してほしい理由とは何ですか。

回答：まず、もともとは健康手帳というものがあり、それを利用していたのがほとんど高齢者だったので、若い世代にも使ってほしいという思いがあったそうです。

また、若い世代は忙しいので、どうしても健康のことは後回しになってしまうので、若い世代でも健康に気を配ってほしいという思いがあったそうです。

質問：スマホを持っていない方へのフォローは何かありますか。

回答：スマホを持っていない人については、区報やチラシで健康に関する情報を知ってもらい、健康手帳で毎日の記録をとっていただければと思います。

質問：「ねりまちてくてくサプリ」とは、具体的にどのようなアプリですか。

回答：自分のペースで楽しく健康づくりをテーマに、練馬のまちを歩いて巡り、普段の歩数を増やすことで日々の健康づくりを応援するという内容です。

また、健康維持のきっかけになるようにという思いも込められています。

質問：政策提言全容図の解決するための方法・手段に、新しい機能をつけ利用しやすくなるとありますが、新しい機能というのは具体的にどのようなものでしょうか。考えがあれば、教えてください。

回答：一つ挙げるとしたら、採点機能があります。

これは、その人の一日の運動量や運動内容を入力すると自動で採点をして、アドバイスをする機能のことです。これによって、アプリの利用者が次にどういう運動をすればいいのか、より具体的に考えたり、実践したりすることができると思います。

質問：今アプリの中にある機能は、どのようなものがありますか。

回答：毎日の記録やランキング、マップ、イベント情報など、日々の健康づくりを応援する機能があります。

質問：既に実施されている健康アプリの周知の方法は、どのようなものがありますか。

回答：チラシを区内の施設などに配布することや、区報にアプリの情報を掲載することです。

質問：アプリのアンケートとは、学校で行うものですか。アプリ内で行うものですか。

回答：アプリ内でアンケートを行い、そのアンケートの回答で意見や改善点などを伝えます。

議長

ありがとうございました。それでは、次の発表に移ります。

「令和のafter school 改革～広がり アクティブな活動の輪～グループ」、お願いします。

## 「中高生の地域での活動の充実について」

### 令和の a f t e r s c h o o l 改革～広がり アクティブな活動の輪～グループ



私たち「令和の a f t e r s c h o o l 改革～広がり アクティブな活動の輪～グループ」は、「中高生の地域での活動の充実について」というテーマに基づいて発言します。

私たちは、中高生の地域での活動の場の一つとして、児童館・青少年館の利用について調べることにしました。

児童館は、保護者同伴の乳幼児から18歳までの方を、青少年館はおおむね30歳代までの方を対象として利用されている施設です。

私たちは、これらの施設の中高生の利用率を上げるために、光が丘なかよし児童館と春日町青少年館を訪問し、利用状況調査や職員への方のインタビューを行いました。

1枚目の写真は、光が丘なかよし児童館で、利用者数やイベントについて職員の方にインタビューをしている様子です。



2枚目の写真は、春日町青少年館で施設の案内をしていただいている様子です。

また、放課後の過ごし方について、自分たちの中学校でアンケートを取り、そこから練馬区の現状が分かりました。

練馬区には児童館が17館、青少年館が2館あります。

インタビューの結果から、光が丘なかよし児童館での中高生の利用率は全体の6.5%でした。学校で行ったアンケートの結果からは、児童館や青少年館を利用する人は全体の3%で、外に出ず、家で過ごす人が一番多いことが分かりました。



また、青少年館の知名度も低いことが分かりました。

そこから、次に述べる三つの問題点を見つけました。

一つ目は、児童館・青少年館のPRが少ないことです。そのため、知名度が低く利用者が少ない原因になります。

二つ目は、中高生のニーズが分かりづらいことです。そのことによって、中高生向けのイベントを作りづらく、参加する人も少なくなります。

三つ目は、イベントに参加するメリットがないことです。メリットがないと、興味がわかず、行こうという気持ちが薄れます。

以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

まず、一つ目のPRが少なく、知名度が低いということについては、児童館や青少年館のホームページはありますが、もっと見やすくしPRするということです。

見やすくなったホームページは、中高生の目に入るようになると私たちは考えます。

また、中高生の多くが利用しているSNSを用いて、児童館などのイベント紹介記事や写真を拡散すれば、とても多くの中高生の目に入り、児童館などのイベントに対する関心が高まり、知名度も上がると思います。

二つ目の中高生のニーズが分かりにくく、中高生向けのイベントが少ないということについては、児童館・青少年館がニーズを理解することです。

具体的な方法としては、児童館・青少年館が中高生に対し、どういうことに興味があるのか、どういうイベントだったら参加できるのかなどのニーズ調査を行うことが必要だと私たちは考えます。

また、中高生はインスタグラムなどのSNSを利用する人が多いので、SNS映えをするイベントを行えば、中高生の利用者数も増え、イベントへの参加者ももっと増えると思います。

三つめのイベントに参加するメリットがないということについては、練馬区独自の「Nポイントカード」を作って、メリットを作り、中高生も参加したくなるようなイベントにすることです。

具体的な方法は、児童館や青少年館の施設の利用や、イベントに参加するとカードにポイントが貯まるようにし、貯まったポイントで、例えば、区立体育館やプールなどの利用もできるなどのメニューを用意します。

また、将来的にはもっと参加しやすいようにするため、「Nポイントカード」と同様に、気軽にアプリでもNポイントが貯まる・使えるなどできるようになれば、より多くの中高生がイベントに参加するようになると思います。

さらに、私たちはこのまち・練馬区をもっと知るイベントを行う必要があると考えました。

具体的には、私たち中高生の持っている力を活用しつつ、児童館と青少年館が連携した



事業として、アニメイベントやウォークラリーを実施することです。

ウォークラリーでは、練馬区の各地を見て回って、練馬区の良さや自慢できる場所を多くの方に発信できる取組も必要と考えます。

また、中高生が家族と一緒に過ごす時間が短くなっているといった中で、家族と一緒に参加できるイベントとして、光が丘公園などを会場としたバーベキュー大会などを行います。

これらの事業には、コストがかかりますが、中高生が児童館や青少年館のイベントに参加し、職員や地域の方々と顔が見える関係を築くことで、地域での防災や環境美化などの活動にも通じることとなり、将来の地域を担える社会人として成長するためにも大事な事業だと私たちは考えます。

最後に、私たちができることとしては、三つのことが挙げられます。

一つ目は、青少年館や児童館が開催しているイベントに参加することです。実際に参加することで施設の良さなどを見つけることができると考えます。

また、小学生向けのイベントでも運営側として参加するところから得られることもあると思います。

そこで見つかった良さを中学生の私たちが友達などに発信することで、耳を傾けやすくなり、学校における児童館や青少年館の利用率も増えるのではないのでしょうか。



二つ目は、中学生である私たちが児童館・青少年館のポスターや学校新聞を作成したり、児童館・青少年館のホームページの作成に携わったりしてPRすることです。

ホームページの作成について、直接携わることができない場合は、職員の方との意見交換ができる場を作り、ホームページ作成へ中高生の意見が反映できるようにします。

同年代の私たちが作ったホームページやポスターなどが中高生の目を引き付け、良いPRになると思います。そうすることにより、中高生の児童館・青少年館の認知度が上がり、中高生の利用率の増加が見込めます。

三つ目は、各施設の職員の方に、私たちの意見・考えを伝えることです。

今回行ったインタビューで、中高生のニーズが分からないという問題を教えてもらいました。そのニーズを知ってもらうには、私たちの意見や考えを知ってもらうのが最良です。

そして、私たちだけではなく各学校の生徒にニーズを聞いて、伝えるといった橋渡し役として活動することで、中高生がもっと利用したいと思える児童館・青少年館ができるのではないかと思います。

つまり、私たち中高生が、児童館や青少年館の運営のサポーターとなることで、私たちがもっと地域でアクティブに活動できるきっかけができる場所を築くのです。

以上で、「令和のafter school 改革～広がり アクティブな活動の輪へグループ」の提言を終わります。

## 議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：ホームページを開設してもそれを検索する意欲がないと意味がないと思うのですが、それについて対処法というのはあるのでしょうか。

回答：興味を持たせるようなイベントを行うことで、対処できると思います。

質問：青少年館と児童館は、それぞれ何をする場所ですか。

回答：児童館は、屋内型児童厚生施設として、主に乳幼児から18歳までの人が遊びや勉強、運動などをする場所です。

青少年館は、社会教育施設として各種教室、講座、催しを行ったり、主に青少年団体へ施設を提供したり、個人が学習できる部屋もあります。また、自立等に悩む若者のための総合相談窓口も設置されています。

質問：自分たちができることとしてホームページに携わるとありましたが、それはさすがに無理があるのではないのでしょうか。詳しくお聞かせください。

回答：直接携わらなくても自分たちの意見を出して、その意見を反映してもらえれば、携わることができると考えています。

質問：SNSを普段使わない人がいると思いますが、そのような人にはどう周知するのですか。

回答：学校で新聞やポスターを作成すれば、SNSを普段使わない人の目にも入り、周知できると思います。

質問：家族で参加するイベントとは、具体的にどのようなものですか。

回答：ウォークラリーやバーベキューなどを考えています。

質問：児童館と青少年館の違いを教えてください。

回答：児童館は乳幼児から18歳までの方が利用し、青少年館はおおむね30歳代までが利用します。

質問：ポイントカードやアプリを作成するとありますが、それぞれのメリットは何でしょうか。

回答：ポイント制にすることでイベント参加率が高くなると思います。

ポイントカードにするメリットは、スマートフォンを持っていない方も使えること、アプリにするメリットは便利になることだと思いました。

質問：中高生の利用率が上がることで、小学生の利用に影響が出ることはないのでしょうか。

回答：中高生タイムなど、中高生だけが利用できる時間が設けられているため、小学生の利用に影響が出ることは少ないと思います。

質問：ホームページをどうやってPRするのですか。

回答：自分たちが作ったポスターにQRコードやURLを載せておくことでPRできると思います。

## 議長

ほかに質問はありますか。

この際、以降のグループ発表に参加したいので、副議長の中村議員と交代いたします。

### 副議長

ここからは、副議長を務めます練馬子ども議員、開進第三中学校2年、中村はる緒が議長の職務を行います。よろしくお願いします。

それでは、次の発表に移ります。

「Let's エコライフ 未来への架け橋グループ」、お願いします。



### 「節電、省エネをもっと身近なものにするために」 Let's エコライフ 未来への架け橋グループ



私たち「Let's エコライフ 未来への架け橋グループ」は、「節電、省エネをもっと身近なものにするために」というテーマに基づいて発言します。

私たちの住んでいる練馬区は、節電・省エネに関する、ねりまエコスタイルフェアなどのイベントや講演会を開催しています。

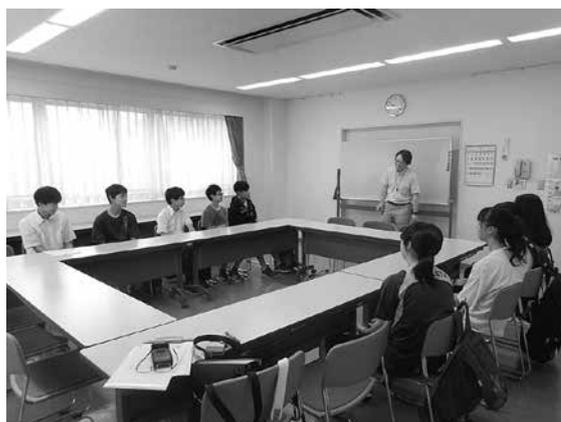
また、エコライフチェックを行い、省エネ・節電行動の普及、CO<sub>2</sub>削減に努めています。

しかし、練馬区の施設にポスターを掲示したり、ホームページの作成をしたりしていますが、見てくれている人は少ないです。

また、家庭でエネルギー消費量が多いことも分かっています。

今回、私たちは節電・省エネをもっと身近なものにするために、春日町リサイクルセンターと練馬区役所の環境課に行ってインタビューをし、節電・省エネについて調査しました。

そこから、次に述べる二つの問題点を見つけました。



一つ目は、省エネに関心を持ってもらうための動機づけとして、1年に一度エコライフチェックを行っています。節電・省エネに関する行動が定着していないということです。

二つ目は、区民の節電・省エネに対する関心がないということです。

そのため、区がイベントなどを開催していることを周知しているにもかかわらず、知っている区民が少ないということが現状です。

以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

まず、一つ目の課題であるエコライフチェックを動機づけとして行っていますが、定着しないことについては、省エネに関する行動を日常の一部として習慣づける必要があります。

そうすることで、エコライフチェックの継続をしないという課題が解消されるのではないかと考えました。

具体的な方法としては、学校で定期的に資源回収を行うことです。

そうすることで、分別を心掛けるようになり、習慣づけることができると思います。

また、蛇口や電気のスイッチなどの近くに、節電・節水のシールを貼ることが必要だと考えます。

実際に自宅で利用してみたところ、以前よりも自然と節電・節水を意識するようになったからです。

二つ目の課題としては、区が省エネに関する活動を周知しているにもかかわらず、区民が知らないということについてです。

これに対する解決策としては、省エネに関する活動に興味を持ってもらう必要があります。

具体的な方法としては、小中学生による手書きのポスターを作ることにより、小中学生が興味を持ってくれるようになります。

さらに、目立つ、親しみやすい、手作りならではの好感が持てるというメリットがあります。

地球温暖化対策の重要性を有名人が紹介することにより、このことに対してより興味が沸きます。

また、節電・省エネをすることのメリットや、練馬区で排出されているCO<sub>2</sub>の量などを校長先生から伝えてもらえば、人から言われたということで、日頃から省エネについて考えるようになると思います。

SNSでCO<sub>2</sub>削減の検証動画をあげて周知することにより、多くの年代の人が見て真似をするようになります。

そして、防災無線で月に1回、節電・省エネに関する呼びかけを流してもらうという方法があります。



月に一度流されることによって、気を付けようという心掛けのもと、省エネ活動を活発化させることが期待されます。

以上の解決方法の中から私たちができることは、先ほども言いましたが、小中学生が手書きのポスターを作ることです。

小中学生が手書きのポスターを作ることで、パソコンで作ったものよりも見ようとする人が増えると思います。

ポスターを見る人が増えることで、より多くの人々が節電・省エネについて意識するようになり、身近なものになっていくと考えます。

また、学校内で資源回収を行い、それをクラス対抗で競う形にします。

ただ資源回収をすることよりも、競う形にすることで、競争心が芽生え、より多くの資源を集めることができると考えます。

そして、イベントに友達を誘って一緒に行くと、一人で行くよりも多くの人々が節電・省エネについて知ることができると考えます。

さらに、ごみの分別やトイレの蓋を閉める、冷蔵庫の開いている時間を減らす、シャワーの使用時間を減らす、ペットボトルに入った飲み物をなるべく控えることなど、自分で節電・省エネを心掛ける



ことで、一人ひとりの環境配慮への意識が高まり、地球温暖化を抑制できると考えます。

最後に、家族と一緒にテレビを見たり、お風呂に入る間隔を狭めたり、使っている部屋の数を少なくするなど、家族と仲良く一緒に行動することでCO<sub>2</sub>排出量が減り、電気代を削減することができるなど、家庭にも環境にも優しくなっていくと考えられます。

以上で、「Let's エコライフ 未来への架け橋グループ」の発言を終わります。

#### 副議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

**質問：**CO<sub>2</sub>削減を習慣づけるための対策として、エコライフチェックの頻度を上げる取組はどうでしょうか。

**回答：**頻度を上げることはいいとは思いますが、あくまで動機づけとして行っているの、何回も行うと効果がないと考えました。

さらに、チェックシートを何回も使用してしまうと、その紙がまたもったいないというところから、頻度を上げるのは難しいと考えます。

**質問：**省エネに関するイベントの内容について、具体的に教えてください。

**回答：**主に日常生活における節電・省エネ・省資源につながる展示や発表などを行っていることが、具体的な内容です。

**質問：**CO<sub>2</sub>削減ということがありましたが、CO<sub>2</sub>を削減するメリットは具体的に何ですか。

回答：CO<sub>2</sub>を削減するメリットは、今世界で問題になっている地球温暖化を抑制することができるということです。

質問：手書きのポスターの内容は、具体的にどのようなことを考えていますか。

回答：省エネや節電に関することを自由に小中学生に考えてもらい、それを絵に表してもらいます。

質問：有名人が地球温暖化対策の重要性について紹介するということですが、有名人が紹介しても余り効果がないと思います。

有名人を呼ぶとコストがかかり、そして幾ら有名人に会いに来たとしても、それがPRになるとは限らないと思います。

また、You Tubeを知らない人はどうするのですか。

回答：有名人を通して伝えることで、マスコミなどに取り上げられることから、大人から周知が可能になり、とても効果が出ると考えます。

また、You Tubeを知らない人であっても、動画が拡散されて伝わっていくと思います。そのため、周知の効果があると考えます。

質問：エコライフチェックの回答は、その後どのように活用されているのですか。

回答：エコライフチェックに参加した人数や、普段と比べて減らすことができたCO<sub>2</sub>の量などを知らせるのに活用しています。

質問：持ってきた資源で遊んでしまう可能性があります。これに対する対策はお考えですか。

回答：1番は、各自遊ばないようにすることを心がけることなのですが、ビニール袋に入れるなど、自分なりに遊ばない方法を工夫することがいいと思います。

質問：イベントのPR方法は何ですか。

回答：練馬区報や区のホームページで周知しています。

質問：区役所の環境課と協力して、どのような活動をしますか。

回答：練馬区が行うイベントに参加したり、打ち水などの活動をしていきたいと考えています。

副議長

ありがとうございました。それでは、次の発表に移ります。

「School lunch～気持ちと共にいただきます～グループ」、お願いします。

### 「残飯率を低くするために練馬区としてどうするべきか」

#### School lunch～気持ちと共にいただきます～グループ

私たち「School lunch～気持ちと共にいただきます～グループ」は、「残飯率を低くするために練馬区としてどうするべきか」というテーマに基づいて発言します。

私たちの住んでいる練馬区は、まだ全ての学校に給食のサンプルが置かれていない、食育に触れる機会が少ない、給食を食べる時間が短い、洋食を食べる人が多く和食を食べたがる人が少ない、食わず嫌いをする人がいる、お米だけで見ると、小学生は5.4%、中学



生は8.5%の残飯があり、約1.6倍中学生の方が残す割合が多く、小学生の方が残飯率が低いという現状があります。

その一方で、キャベツの日や大根の日など、地場産物をほぼ決まった日に取り入れている、牛乳瓶からパックに変わり、飲む割合が上がった、食材は調理する前に3回以上洗い衛生面にとにかく気遣う、カレーのルーのように手作りできるものは手作りするという、良い現状もあります。

今回、私たちは練馬区の学校給食の実情を調べるために、区役所20階の交流会場や区役所1階アトリウムにて、大泉桜学園の栄養教諭の日高先生や農家さん、JA東京あおばさんにインタビューをして調査しました。

そこから、次に述べる三つの問題点を見つけました。

一つ目は、給食のサンプルが全ての学校に置かれておらず、置かれていてもサンプルがある意味を知らないということです。



そのため、配分の目安量が分かっておらず、一人当たりの給食の量にばらつきが出てしまうという状態になります。

二つ目は、家庭科の調理実習や保健体育での身体づくりなどの授業を通して食育に触れてはいるものの、食育という授業がないということです。

それによって、食材への感謝が生まれず、給食を残すことが当たり前になってしまっています。

三つ目は、給食準備に時間がかかってしまっているということです。

食事時間の目安は20～30分ですが、その状態により食べる時間が短くなってしまい、結果的に給食時間が足りず、残飯を増やすという課題が出てきます。

以上の問題点を解決しながら提案に移らせていただきます。

まず、一つ目のサンプルについては、実物を写真に撮り、各ワゴンに乗せることが解決策です。

お玉何杯分、しゃもじ何すくい分などの説明を書くことで、各教室の当番さんが1回に

盛りつける適量が分かり、配り終えた後に足りない、余り過ぎたということも減り、残飯率を減らすことにつながります。

さらに、写真の横にその日の献立に関する一言メモを載せることで、食への関心が湧くと考えます。

しかし、この考えでサンプルの実物を置く学校に二つの問題が起こります。

一つ目は、誰が一食分の料金を払うか、二つ目はサンプルをいつ見るかです。

しかし、この二つの問題は、校長先生の検食分の給食を撮影し、印刷した写真を各ワゴンに乗せることで解決します。

二つ目の食育という授業がないことについては、学校の授業内で取り扱うことです。

そうすることで、現状よりもっと食育、つまり食事の重要性を伝える授業に触れる機会が多くなることを機に、生徒一人ひとりが食育について知り、そして自分自身の食生活をもう一度考え直すことで、給食への意識が変わるのではないかと考えます。

具体的な方法としては、道徳の授業や家庭科の調理実習、集会などで食育に触れる機会を設けたり、実際に授業の中で近くの畑などに行き、食べ物に関する何かを体験することです。

また、給食への関心を促すために、全校で自分でメニューを考えてリクエストできるようにすることも必要だと考えます。

続いて三つ目の食べる時間の確保については、給食委員などと協力して、準備にかかる時間を計り、良かったクラスを表彰することです。

これは、各クラスによって始める時間と終わる時間を設定しているものなので、公平性は保たれます。

このようなイベント形式にすることで、各クラスで競争心が生まれ、率先して給食準備に取りかかる生徒が多くなると思うからです。

給食準備が早ければ早いほど、食べる時間もより多く確保できます。

準備が長く、食べる時間が短いという問題が改善され、残飯ゼロにもつながると考えました。

また、担任や副担任と協力して準備することも一つの方法として挙げられます。

もちろん、給食当番などが率先してやることは大切です。

ですが、担任や副担任を含めた大人の人にできる限り協力してもらうことで、より効率良く、手際良く、給食準備に取り組むことができると考えます。

最後に、私たちができることです。

サンプルの写真を見てもらうことを呼びかけ、それをクラス内で説明することです。



見てもらうことで、給食に興味を持ってもらい、残飯率を減らすことができると考えます。

次に、二つ目の食育では給食委員に協力してもらい、きな粉揚げパンのきな粉は何からできているかななどの給食クイズや給食の疑問や改善点、自分が出題してもらいたい給食クイズを入れるボックスを設置することです。



そうすることで、食べ物の知識を増やし、楽しませることができ、これもまた残飯率を減らすきっかけになると考えます。

次に、三つ目の食べる時間の確保について私たちができることは、準備が早く進むように呼びかけることです。

準備を呼びかけることで、給食を食べる時間が増え、残飯率を減らすことにつながると思います。

ほかにも私たちができることは、当たり前のことですが、給食を残さず食べることです。そして、私たちのグループで出た新しい考えは、食レポをすることです。

給食を食べる前にクラスの代表者、例えばムードメーカーなどが食レポをすることで、生徒が給食に対し興味を抱き、少しでも食べようという気持ちになると考えます。

以上で、「School Lunch～気持ちと共にいただきます～グループ」の発言を終わります。

## 副議長

ありがとうございました。次に、ただいまの発表について、質問があればお願いします。

質問：JA東京あおばの方にインタビューとありましたが、JA東京あおばとは何ですか。

回答：農家さんなどの生産者と私たち消費者をつなぎ、速やかに生産者が販売できるようにしたり、農業をする人のお手伝いをする方々のことです。

質問：給食クイズとは、どのようなタイミングで行うと考えていますか。

回答：まず、各クラスの給食委員がその日の朝に黒板にクイズの問題を挙げます。

分かった人はその給食委員に回答を伝え、ホームルームの時間などに、今日の問題の回答と、今日クイズが分かった人をみんなに発表するという形式です。

質問：給食クイズは具体的にどこで行うのですか。

回答：給食クイズは週に一度、各教室で給食委員が行います。

質問：食レポの時間は食べる時間を短くしてしまうのではないのでしょうか。

回答：食レポの所要時間は30秒として、配膳を早く済ませるように呼びかければ、食べる時間に影響はないと考えています。

質問：写真と一緒にその日の給食について一言メモをワゴンに乗せるとありましたが、一言メモの内容について具体的に教えてください。

回答：一言メモとは、その日の給食に関する豆知識であったり、使用されている食材の説

明などを簡単に誰でも早く見られるようにまとめているメモの事です。

質問：どのように給食準備が進むように呼びかけるのですか。

回答：まずクラスの中で何分までに準備をするかというのを話し合ってもらって、実際給食委員会を中心に声かけをして、準備をするという考えです。

質問：給食の準備が一番早かったクラスへの表彰の仕方を教えてください。

回答：給食委員が、そのクラスの学年委員に表彰します。

質問：食べる時間を増やすとありましたが、それでも食わず嫌いの人がいれば、残飯はあまり減らないと思います。こういった対策を考えていますか。

回答：食わず嫌いの人に食べてもらう活動として、食レポで興味を引き、残飯を減らす対策を考えています。

質問：給食の準備を競うとありましたが、準備で競うと危険ではないですか。

回答：競争心が生まれることで給食準備を早くしようという意識を高めているので、危険な状態になるまで準備を競うことまでは求めていません。

## 副議長

ありがとうございました。以上で、政策提言発表を終了いたします。

それでは、練馬子ども議会で発言のあった、「健康アプリの利用を推進するための取組について」、「中高生の地域での活動の充実について」、「節電、省エネをもっと身近なものにするために」、「残飯率を低くするために練馬区としてどうするべきか」、以上の四つの政策提言について、教育長から講評をお願いします。

## 教育長による講評

### 教育長



河口教育長

練馬区教育委員会、教育長の河口でございます。

今年度の子ども議会、多くの中学生の皆さんが参加してくださって、四つのグループに分かれて、それぞれ政策提言を発表していただきました。

私も、全ての発表を聞いて、そしてまた会場から結構鋭い質問があって、それに対して的確にお答えになっている姿を見て、頼もしいなと思いました。

今回、皆さんは、政策提言するに当たって様々な学習をされました。

特に、地域調査において、実際にその問題を扱っている役所の部署や施設などに、出向いて、いろいろな人の意見を聞いたことでしょう。

こうして、実際の現場というか、その問題がまさに一番あらわれている場所に自ら行って、そこでいろいろな話を聞いたり、感じたり、体験したりしたということ、このことは

とても大事なことです。

まず、現状を知り、その中でどういうところが今問題なのだろうと、その問題を見つけ、それを解決するためにはどのような対策が取れるのだろうか、みんなで討議して考え、考えた内容をみんなの前で発表して、その発表に対してこういう考え方もあるのではないかという様々な質問をもらって、「そうだな」、「そういうことも確かにあるな」ということがたくさんあったことと思います。

そして、今度はそのことについていろいろと調べて、その質問に対してどう答えようかと考えるという繰り返しが皆さんにとって、とても大切なプロセスだったことでしょう。

この子ども議会の大きな目的が、その皆さんがいろいろと考えたプロセスにあったと思っています。そのプロセスを通して、最初は初めて会った友達が、もう今では本当に強い絆で結ばれた仲間になったのではないのでしょうか。

ぜひ、この令和元年度の子ども議会を通して仲間になった皆さん、この絆をこれからも大事にしていってください。

今回は、SNS、あるいはポイント制などを活用することによって解決ができるのではないかということがたくさん出ました。

我々役所も、そういう新しいシステムや、コンピューターを使っているいろいろなSNSを使った周知の方法を区民の皆様方に提供しようということで一生懸命努力しています。

でも、若い皆さんから見れば、まだまだできる余地はあるのではないかということで提言していただいたこと、それはとてもありがたいことで、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

そしてまた一方では、手作りのポスターをもっと作ってはどうかという提案がありました。

そういう意味では、皆さんが単にSNSだけではなくて、自分たちができることとして、手作り感というものをもっと出していいのではないかということを書いてくれたのは、私としてはとてもうれしく思いました。

さて、四つのグループの発表がありましたので、それぞれのグループについてコメントさせていただきます。

まず、「You can try! アプリで目指す健康生活グループ」です。

健康アプリを通じて、健康の大切さを考えてくれたことが、とてもうれしく思います。

若い人は忙しさもありますが、それよりも健康であることが当たり前なので、あまり健康について関心を持たない傾向にあります。

しかし、がんや成人病などの多くの病気は、若いうちからの生活習慣によって、その原因が作られているということが言われるようになってきています。

したがって、若いうちからのがん教育や健康教育がとても大切です。

皆さんが健康アプリを通じて、健康の大切さ、そしてまた自分たちの健康について考えてくれたことはとても有意義であったと思います。

ぜひ、これからも健康について考えていただいて、それを学校の友達、そしてまたご家庭でも話し合っていく、そういう環境を作ってください。

よろしくお願いいたします。

次に、「令和の a f t e r s c h o o l 改革～広がり アクティブな活動の輪～グループ」です。

SNSの活用やポイント制などの提案は、さすが現代の中学生だなと思って聞いていました。

ホームページの作成や館の運営、イベントの企画や運営にも、皆さんが自ら参加したいという思いがあふれた提言になっていました。

この提言については、私どもが受け取らなくてはならないと感じています。

児童館と青少年館へ皆さんもぜひ行っていただいて、施設の運営やイベントの開催についても積極的に意見を言ってください。

よろしくお願いいたします。

次に、「L e t ' s エコライフ 未来への架け橋グループ」です。

節電と省エネに焦点を絞って提言をいただきました。

この節電と省エネは、非常に大切なことなのですが、皆さんも言っていたように、なかなか長続きしないということがあります。

毎年、エコライフチェックをやりますと、「こんなこともしなくてはいけない」、「節電・省エネをしなくてはいけない」と思うのですが、なかなか日常の生活をしていく上では長続きしません。

そのことにしっかりと皆さんが問題意識を持って、どうしたら長続きすることができるのだろうと考えてくれたこと、それはとてもありがたいことだと思いました。

省エネや節電が大切だと言われてはいますが、これらはどういう問題につながっていくのでしょうか。

これは、今地球規模で言われている、いわゆる温暖化というものにも結びついていきます。

去年、一昨年あたりから、日本でも異常気象ということが言われています。

地球の温暖化という問題が、皆さんの生活にどのような影響を及ぼすのか、そのことをぜひ発展問題として考えてください。

今日の皆さんの発表を聴いて、皆さんならこの問題を発展させて考えてくれると思います。大いに期待をしています。

最後に、「S c h o o l l u n c h ～気持ちと共にいただきます～グループ」です。

食育、特に給食のことを取り上げていただきました。

食べるということは、先ほどの健康に関する提言にもありましたが、人間にとって、とても大事なことです。

そのことを皆さんがしっかりと考えて、この食育、給食について考えてくれたことに、敬意を表します。

好きなものだけ食べて、嫌いなものは残すということを、皆さんはしていないと思いますが、そういうことをすることが、やがてはどういうことになるのか、皆さんもぜひ考えてみてください。

それから、給食時間を確保するために、いろいろな工夫が出ました。

給食クイズや食レポなど、聞いていて思わず、「あ、面白そうだな」と感じました。

これは、ぜひ先生に提案してみてください。

そういう工夫を、皆さんが自分たちでできることとして提案してくれたことを、とてもうれしく思います。

食といえば、単に食べ残しの問題だけではなくて、食の安全・安心などの問題にも絡んでいます。

また、野菜や肉、乳製品などの食材を作っている生産者の方々の存在に、思いをはせることも、食を考えるとときにはとても大切です。

練馬区は、23区の中でも多くの農地を持っています。

その農地では、様々な野菜や果物が育っています。

そして、地元で育ったものを皆さんは給食で食べています。

また、スーパーや八百屋さんに行ったら、地元の野菜が売っていることもあるでしょう。

このように、自分たちのすぐ側で、自分たちの食を支える生産者がいるということも、ぜひ考えてみていただきたいです。

練馬区では、今年の11月29日から12月1日までの3日間、世界都市農業サミットを開きます。

これは大きな都会にありながら農地を持っている世界中の街の方に集まっていただいて、都市にある農業の大切さというものを、みんなで話し合っていこうというイベントです。

いろいろなイベントが開催されるはずですから、ぜひそのイベントにも参加して、改めて食べるということ、食ということを考えてくれればうれしく思います。

以上、四つのグループについて、簡単ですけども、お話をさせていただきました。

本日は、多くの保護者の方にもおいでいただきまして、ありがとうございます。

きっと、子どもたちもこの発表や質問を通して、子ども議会を楽しんでくれたと思いますし、それぞれが成長してくれればと思っています。

結びになりますが、今日の議長を務めてくれた南出君と副議長の中村さん、そして発表してくれた全ての子ども議員の皆さんに心からの拍手を送って、私の講評とさせていただきます。

皆さん、本当にお疲れさまでした。

ありがとうございました。

(拍手)

## 副議長

これもちまして、令和元年度練馬子ども議会を閉会します。

子ども議員の皆さん、また傍聴者の皆さん、長時間ご協力ありがとうございました。

(拍手)

練馬子ども議会議長

十南出 佑大

練馬子ども議会議員

飯田 航輝

練馬子ども議会議員

五月女 大志

練馬子ども議会議員

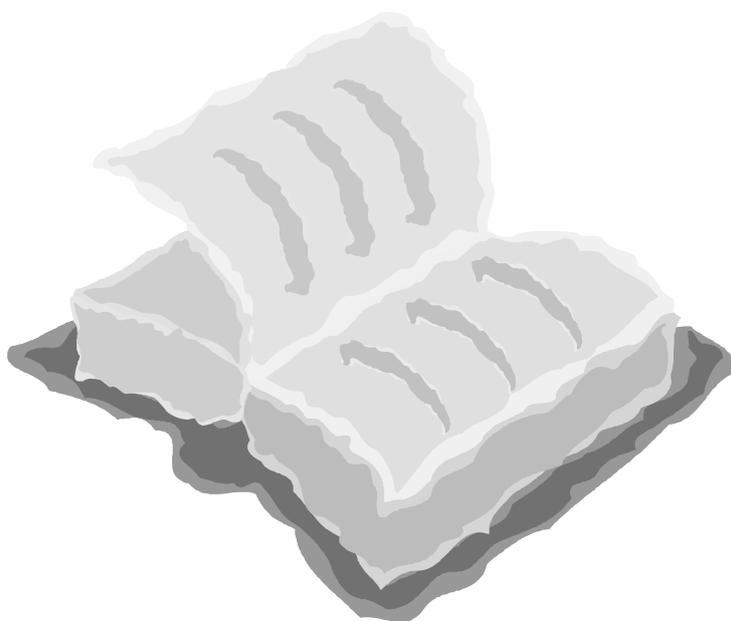
吉田 彩希子

練馬子ども議会議員

石井 正太郎



# 資料



## 令和元年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

グループ	報告書記載ページ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
<p style="text-align: center;">Y o u c a n t r y ! アプリで目指す健康生活グループ</p>	<p style="text-align: center;">健康アプリの利用を推進するための取組について</p>	<p>健康アプリの知名度を上げるために、PRの場所・回数を増やしてはどうか。（新聞での宣伝、HPの工夫、学校で講習会開催、ポスターコンクールの実施、チラシの配付など）</p> <p>若い人に興味を持ってもらえるよう、ライスタンプがもらえるキャンペーンを行ってはどうか。</p>	<p>10月20日（日）に開催した健康フェスティバルにてチラシを配布（約12,100人来場）しました。</p> <p>また、令和元年12月頃に「郵便局だより」にアプリの記事が掲載される予定（15,000部発行）です。さらに、次年度は路線バスの広告掲載を検討中です。</p> <p>そのほか効果的な周知啓発を今後とも検討していきます。</p>
	<p style="text-align: center;">P33 ～37</p>	<p>健康アプリの機能が活用されるよう、健康診査の結果表にアプリの案内を入れ、読み取り機能などでアプリに簡単に結果入力ができるようにしてはどうか。</p> <p>また、健康診査の結果を聞きに行ったり、病院からアプリの活用を勧めようようにしたり、受診しやすくするために、短時間（30分程度）での受診「クイック健診IN練馬」という制度を作ってはどうか。</p>	<p>読み取り機能に関しては、大幅な機能改修が必要なため困難です。</p> <p>アプリの周知協力および健康診査の受診環境改善のため、医師会と協議を進めていきます。</p>

グループ	テーマ	報告書 記載 ページ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
令和の a f t e r s c h o o l 改革 広がるアクティブな活動の輪グループ	中高生の地域での活動の充実について	P38 ～41	<p>児童館や青少年館の知名度を高めるために、ホームページを見やすくしたり、イベントの紹介記事や写真をSNSを利用して周知してはどうか。</p> <p>中高生の利用者を増やすために、どんなことに興味があるのか、どんなイベントだったら参加できるのかなどのニーズ調査をしてはどうか。また、SNSを活用するイベントや中高生と連携したイベント（ウォークラリーなど）を開催してはどうか。</p> <p>中高生が施設利用やイベントに参加しやすくするため、区独自の「Nポイントカード」を作り、貯まったポイントでお得に施設利用できるなどの制度を作ってはどうか。</p>	<p>児童館ホームページは、各児童館ごとの掲載を出来る限り統一し、各種イベントや児童館だよりを探しやすいように工夫していきます。</p> <p>また、児童館ツイッターを活用した中高生向け事業の周知に取り組んでいきます。</p> <p>青少年館においても、ホームページを児童館同様に見やすくするよう工夫を行っていきます。</p> <p>教育委員会では、「練馬区子ども・子育て支援計画」の検討にあたり、中高生に対してニーズ調査を実施しました。児童館では、中高生の自己実現の場として、中高生が主体的に企画、運営するイベントを実施していきます。</p> <p>また、今後はSNSを活用した中高生向けの事業展開も検討していきます。</p> <p>児童館の中には利用のたびにスタンプ押印等を実施している施設もあり、溜まったスタンプで賞状などを交付しています。現在のところ、他施設の利用やアプリ導入の予定はありません。</p> <p>今後、中高生など若者の施設利用の促進が図られる取組を検討していきます。</p>

グループ	テーマ	報告書記載ページ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
未来への架け橋グループ Let'sエコライフ	節電、省エネをもっと身近なものにするために	P42～45	<p>省エネに関する行動を習慣づけるために、学校で定期的に資源回収をすることや、蛇口や電気のスイッチなどの近くに、節電・節水のシールを貼ってはどうか。</p>	<p>学校での資源回収は、各校ごとに検討して行っています。現在、「節電・節水シール」はありません。「節電・節水シール」の作成・配付の方向で検討しています。</p>
	<p>省エネに関する活動に興味を持ってもらうために、小中学生による手書きのポスター作成、有名人や学校長などから省エネの取組へのメッセージを話してもらう機会を作ること、SNSでCO<sub>2</sub>削減に関する検証動画をあげること、防災無線による節電・省エネの呼びかけをしてはどうか。</p>			<p>こどもエコ・コンクール入賞作品のデザインを使用したグッズ等を作成し、PRを実施しています。環境月間（6月）、地球温暖化防止月間（12月）、省エネ月間（2月）に合わせて、それぞれのテーマに合った内容の講演会を、著名な研究者などを招聘して実施しています。</p> <p>ねり☆エコマスコットキャラクターによる地域での啓発活動について、ねり☆エコのツイッターでPRしています。</p> <p>ねり☆エコستاイルフェアのトラックスタージでの啓発活動について、毎年youtubeへの投稿をしてPRしています。今後これらの拡充に努めていきます。</p> <p>普段の学校生活から節電・省エネを意識できるよう、小・中学校の委員会活動を中心とした啓発に取り組むなど、各校が実情に応じて周知しています。</p> <p>防災無線は、地震や台風などの災害対策業務や区政に関する重要情報の放送を行うことを目的としています。節電・省エネの呼びかけが目的の放送は困難と考えます。</p>

グループ	テーマ	報告書記載ページ	子ども議員の意見・提案	その後の取組状況など（予定も含む）
<p>～ 気持ちと共 Sch o o l L u n c h にいただきます～グループ</p>	<p>残飯率を低くするために練馬区としてどうすべきか</p>	<p>P45 ～49</p>	<p>盛り付けの適量をわかりやすくして、残飯率を減らすために、配膳ワゴンに給食サンプルの写真の写真を載せてはどうか。</p>	<p>各学校で給食に充てられる時間の中で実施に向けた役割分担や工夫を考えたり、残食を減らすために各学校の給食の実態や実施状況に合った具体的な進め方を検討していきます。</p>
			<p>食育に触れる機会を増やすため、授業などで食育に関する内容を取り入れたり、自分でメニューを考えて食べるようにしてはどうか。</p>	<p>学校では各教科の中でさまざまな形で食育に関する取り組みを取り入れています。校長先生はじめ食育に取り組んでいる先生方や学校栄養士がメニューになっている各学校の食育推進チームや「小中学校における食育推進委員会」の中で給食を通して食育をさらに身近なものと感じてもらえるような方法を考えていきます。</p>
			<p>給食を食べる時間を確保するために、給食準備時間を競うイベントなどを開催してはどうか。</p>	<p>給食時間を確保するためには、それぞれの学校の状況に応じた取り組みを進めていく必要があります。給食準備が効率的にできるよう、各学校に合った方法をそれぞれ工夫してもらい、その実施に向けて給食の準備に必要な物品を増やすなどの対応を行っていきます。</p>

## 子ども議員へのアンケート集計結果

配付35 回収35

※各欄の%は回答数に対する割合とする

### 【子ども議会に参加した動機について】

(問1) 子ども議員になった理由を次のうちから一つだけ選んでください。

先生にすすめられて(学校の推薦)	26	74%
面白そうだったから	4	11%
練馬区に興味・関心があったから	0	0%
以前、参加したがまたやってみたいと思ったから	1	3%
自分の意見を発言したいと思ったから	0	0%
その他	4	11%
計	35	100%

【「その他」の自由記入欄】

・生徒会内での立候補

### 【オリエンテーションについて】第1回学習会(7月6日)

(問2-1) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	20	57%
良かった	10	29%
どちらでもない	3	9%
あまり良くなかった	2	6%
良くなかった	0	0%
計	35	100%

(問2-2) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

充実していた	14	17%
良い経験となった	22	26%
他校の生徒と交流できた	27	32%
区のことがあった	13	15%
わかりやすかった	8	10%
その他	0	0%
計	84	100%

【「その他」の自由記入欄】

・投票箱の組立てなど、他では体験できないことができた。

(問2-3) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

部活などとの調整が大変だった	7	27%
他校の生徒との交流がなかった	5	19%
全体的にわからなかった	4	15%
区政・区議会制度のことがよくわからなかった	1	4%
選挙制度のことがよくわからなかった	1	4%
政策提言のことがよくわからなかった	1	4%
時間が足りなかった	5	19%
その他	2	8%
計	26	100%

【「その他」の自由記入欄】

・もっと時間があれば、内容も濃くなったかもしれないと思った。

・PTがアドバイスしてくれたので、とても良い学習ができた。

・時間が長かった。

【地域調査について】第2回学習会(7月23日)

(問3-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	26	74%
良かった	6	17%
どちらでもない	3	9%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	35	100%

(問3-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

充実していた	23	35%
良い経験となった	23	35%
政策提言発表の参考になった	19	29%
その他	1	2%
計	66	100%

【「その他」の自由記入欄】

・自分達でインタビューしに行くのが楽しかった。

(問3-3)良くなかった点は何ですか(複数回答あり)

調査の時間が少なかった	9	82%
政策提言発表の参考にならなかった	1	9%
別の場所を調査したかった	1	9%
その他	0	0%
計	11	100%

【「その他」の自由記入欄】なし

【政策提言作成(グループ討議)について】第3回学習会(7月24日)

(問4-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	23	74%
良かった	8	26%
どちらでもない	0	0%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	31	100%

(問4-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できた	25	20%
他の人の意見を聞いた	23	18%
みんなで協力できた	25	20%
十分に検討できた	18	14%
グループでうまく意見をまとめることができた	18	14%
区の現状を知ることができた	14	11%
その他	2	2%
計	125	100%

【「その他」の自由記入欄】なし

(問4-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できなかった	2	17%
他の人の意見を聴けなかった	0	0%
みんなで協力できなかった	1	8%
話し合いの時間が足りなかった	6	50%
意見がうまくまとまらなかった	1	8%
区のことを知ることができなかった	0	0%
その他	2	17%
計	12	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・休憩のメリハリがつかなかった。
- ・作業スピードに差があり、時間がかかるグループとそうでないグループに差があった。

(問4-4)その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・第2回と第3回学習会が連日開催となり、間隔が狭いと思う。

【子ども議会開会宣言、意見交換会、第4回学習会】(7月31日)

(問5-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	23	70%
良かった	8	24%
どちらでもない	2	6%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	33	100%

(問5-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができた	29	27%
区の現状、考えが理解できた	17	16%
良い経験となった	27	25%
他のグループの考えを知ることができた	14	13%
意見交換の結果を、提言に反映できた	20	19%
その他	0	0%
計	107	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・考えをまとめて意見を述べる良い機会になった。

(問5-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができなかった	2	15%
区の現状、考えが理解できなかった	1	8%
他のグループの考えを知ることができなかった	3	23%
意見交換の結果を、提言に反映できなかった	1	8%
その他	6	46%
計	13	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

- ・意見交換会の時間が足りなかった。

【政策提言発表について】(8月6日)

(問6-1)参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	27	77%
良かった	8	23%
どちらでもない	0	0%
あまり良くなかった	0	0%
良くなかった	0	0%
計	35	100%

(問6-2)良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見がうまく発表できた	28	27%
区长から講評をもらった	11	11%
良い経験となった	30	29%
実際の議場でできた	18	17%
議員の役割を理解できた	16	16%
その他	0	0%
計	103	100%

〔「その他」の自由記入欄〕

・みんなでまとめた提言をしっかりと発表することができた。

(問6-3)良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

形式的だった	9	69%
うまく発表できなかった	1	8%
時間がなかった	0	0%
区の現状、考えが聞けなかった	1	8%
その他	2	15%
計	13	100%

〔「その他」の自由記入欄〕なし

【練馬子ども議会を振り返って】

(問7)子ども議会の期間(5日間)について、どのように感じましたか？

長い	1	3%
少し長い	3	9%
丁度良い	25	71%
少し短い	5	14%
短い	1	3%
計	35	100%

「長い」「少し長い」を選んだ理由

- ・日数は良いと思うが、1日に活動する時間は長いと思った。
- ・学習会等の時間が長く、毎日が忙しかった。

「丁度良い」を選んだ理由

- ・じっくり学習できたから。
- ・1回ごとの学習会ではきちんと意見をまとめることができ、次につなげることができた。時間も足りないということもなかったから。
- ・短期集中ではあったが、だらけずに良い具合だったから。
- ・自分達のテーマについて、意見や現状についてしっかりまとめることができ、充実した発表をすることができたから。
- ・日数を置いて開催されていたから。
- ・自分達の考えたことなどを余すことなく伝えることができたと思うから。
- ・みんなで意見を出し合い、提言内容を考えるには十分な時間だったから。
- ・しっかりと意見をまとめて発表することができたから。

- ・みんなの意見がしっかりまとまっていたから。
- ・内容をまとめる時間もあり、他校の生徒との交流もできたから。
- ・短すぎず長すぎず、他校の生徒と親しくなれる期間があったから。
- ・これ以上長く行くと、だらけてしまう可能性がある。丁度良い長さだと思う。
- ・政策提言を作成するには十分な時間があったから。

#### 「少し短い」「短い」を選んだ理由

- ・もう少し他校の生徒と交流できる時間があれば良かったと思うから。
- ・もっとじっくり考えたかったから。
- ・もっと他校の生徒と交流したかったから。
- ・もっとやりたかったから。

(問8)全体を通して練馬子ども議会は皆さんの政策提言を十分に表明する場となりましたか？

そう思う	30	86%
まあそう思う	5	14%
あまりそう思わない	0	0%
そう思わない	0	0%
わからない	0	0%
計	35	100%

#### 「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・練馬区の現状を前向きに考えることができたから。
- ・しっかりと自分達のまとめた考えを伝えることができたから。
- ・全員がしっかりと発言することができたから。
- ・大人のような提言ができたから。
- ・自分の意見や考えをまとめて文章化し、わかりやすく発表することができたから。
- ・一生懸命まとめた意見を、大きな舞台で発表することができたから。
- ・自分達の考えを伝える良い場となったから。
- ・十分に話し合いをして、発表できたと思うから。
- ・発表時間が十分にあり、教育長にも聞いてもらえたから。
- ・自分の考えを自由に発言できて良かったから。
- ・他グループへ質問できたことも良かったから。
- ・自分で初めから原稿を考えて作ることができたから。
- ・いろいろな生徒と区の事などを会話し深めることができたから。
- ・地域調査の場所や提言案など、すべて自分達で決めて進めることができたから。
- ・教育長がしっかりと発表を聴いてくれて、良く伝わったと思ったから。
- ・調べたことや、みんなの意見がうまく表明されていたと思うから。
- ・今までしてきたことをすべて話すことができたから。
- ・スムーズに進めることができたから。
- ・教育長が親身になって発表を聴いてくれたから。
- ・グループ内で話し合い、より良い政策提言を作ることができたから。
- ・1人ひとりの意見をしっかりと発表することができたから。

(問9-1)今後子ども議員の経験を生かせる(または、生かしたい)と思いますか。

そう思う	27	77%
まあそう思う	6	17%
あまりそう思わない	0	0%
そう思わない	0	0%
わからない	2	6%
計	35	100%

#### 「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・自分の考えを伝えることが生かせると思った。
- ・たくさんの人に前に立って発表するという機会が得られた。また、他校との交流を通して、自分の学校で生かせる活動などを見つけられた。
- ・聞く人に分かりやすく発表することは、生徒会などで生かせると思った。
- ・みんなで話し合い、わかりやすくまとめて発表するということは、将来働く上でも生かしていきたい。
- ・現状を知り、まだまだ改善していくべき部分があると思う。学校生活でも取り組んでいきたい。
- ・学校全体や生徒会、クラスでの発表にあたり、協力してまとめていくことに生かしていきたい。
- ・たくさんの人々の考えや意見を知ることができた点は生かしていきたいと思う。
- ・集団討論などで生かせると思う。
- ・生徒会活動に生かせると思う。
- ・これからの生徒会活動で自分自身のスキルアップにつながったと思う。また、学校の中でできることもたくさん見つかった。
- ・自分の意見をしっかりと表現するということを生かしていきたい。
- ・自分やまわりの意見をまとめて、大勢の前で発表する力はどこでも役立つと思う。
- ・今回の提言を、家や学校で生かしていきたい。
- ・話し合いの時に、積極的に意見を言うこと。
- ・意見を出し合って話し合う良さや、練馬区のことを学べたので、役に立つと思う。
- ・練馬子ども議会に参加して、これからの生活や社会人になったときにも必要になる力を身に付けることができたと思う。
- ・今後、自分の意見を述べるときには、行かせると思う。
- ・学校生活でこの経験を生かしたい。
- ・学校生活に生かしていきたい。
- ・活発に発言し、相手の意見をよく聞くこと。
- ・自分の意見を簡潔にまとめることや発表することを、学校内の活動で生かしていきたい。

### 「わからない」を選んだ理由

なし

### (問10) 子ども議会についての自由意見

- ・楽しかった、面白かった。
- ・同年代の生徒達との交流を通して、自分の学校で参考になる案をたくさん知ることができた。とても良い経験ができたと思う。
- ・とても良いと思うので、これからも続けてほしい。
- ・たくさんのことを経験でき、良かったと思う。またやってみたい。
- ・見ず知らずの人と話をするのが苦手だったが、学習会をとおしてグループメンバーとコミュニケーションを取ることで、段々慣れていき、会話も弾むようになった。充実した話し合い、発表ができて嬉しかった。子ども議会に参加できて本当に良かったと思う。
- ・今後もこのような機会を作り、子供達の意見に耳を傾けてもらえるようにしてほしい。また機会があれば参加したい。
- ・自分にとってとても良い経験になった。これからもこの活動を続けてほしい。
- ・他校の生徒と意見を交換し合うことができ、とても良い経験になった。
- ・はじめは緊張したが、楽しく活動できた。
- ・楽しかったので、またやりたい。もっと他の人にも知ってほしい。
- ・とても良い会だった。
- ・他校の生徒と交流し、話し合いをすることで、自信がついた。とても貴重な時間だった。
- ・積極的に活動でき、他校の生徒とも交流できた。良い経験になったと思う。
- ・とても楽しく活動できた。
- ・本当に良い経験ができた。感謝したい。
- ・各校の代表が集まり区に意見を表明できて、とても良いと思った。
- ・楽しかった。他校の生徒と交流したのは初めてだったので、嬉しかった。
- ・相手の意見をしっかりと理解し、聞くことができたと思う。同じグループになった他校の生徒達とはお互いの学校のことなどを知ることができて、とても楽しかった。

## 練馬子ども議会実行委員会プロジェクトチーム（PT）について

### 1 設置目的

練馬子ども議会学習会で政策提言発表内容等について子ども議員が上手く議論できるよう、青少年課職員とともに進行管理や助言をするために、政策提言発表テーマに関する所管部から5名の職員を選出し、PTを設置した。

PTは各部庶務担当課長で構成する「練馬子ども議会実行委員会」（こども家庭部長が委員長）の下部組織にあたる。

### 2 プロジェクトチームの担当内容

- (1) 学習会のグループ学習の際、各グループに入り、青少年課職員とともにタイムスケジュールに沿った学習会の進行管理をする。
- (2) グループの扱うテーマに関する専門的な知識についての質問に対する回答や、情報の調べ方についての助言をする。
- (3) 意見が上手くまとまらず進行が滞った時は、腹案を提示するなどしてグループの意見をまとめる。
- (4) 子ども議員の提言内容がグループの扱うテーマから外れたものである場合には、グループの扱うテーマとなるよう示唆する。

### 3 プロジェクトチームメンバー

#### <区政全般に関する分野>

健康部	光が丘保健相談所	地域保健係	主査	渡邊 奈美
健康部	石神井保健相談所	地域保健係		金 由希子
環境部	環境課	地球温暖化対策係	係長	佐藤 典男

#### <教育・こども分野>

教育振興部	保健給食課	学校給食係		原田 真理
こども家庭部	青少年課	春日町青少年館	館長	佐藤 裕之

---

## 練馬子ども議会報告書

令和元年（2019年）12月 発行

編集発行 練馬区教育委員会事務局こども家庭部青少年課

〒176-8501練馬区豊玉北6-12-1

TEL 03-5984-1292（直通）

Mail : SEISHONEN03@city.nerima.tokyo.jp

ホームページ : <http://www.city.nerima.tokyo.jp>

---

